

中学校道徳科において

多様な考えを基に、人間としての生き方について考えようとする生徒の育成

～立場を明確にするカラーコップを使用した話合いの工夫～

特別研修員 道徳 天田 智之（中学校教諭）

生徒の
実態

- ・話合い活動に積極的になれない
- ・道徳的価値の理解に深まりが見られない



授業
実践

主題名 相手の立場で B - (9) 相互理解、寛容
教材名 「なみだ」（出典：東京書籍）

手立て①

カラーコップを使用した 生徒同士の話し合い

生徒同士の話し合いが生じ、
多面的・多角的に考えることができるようにする

中心
発問 もし主人公の立場だったら、大けがを
した翌日、けがをさせた相手にどう接するか

- (1)三色カラーコップで
自分の立場を明らかにする
- (2)生徒同士が互いに気になる
意見を取り上げて話し合う



声を
かける

どちら
でもない

声を
かけない

気まずいから私は声をかけないと思
うけど、なんで声をかけるの？

自分から声をかければ
気持ちが少し楽になるから



生徒同士の話し合いが活発になり
多面的・多角的に考えることができた

手立て②

道徳的価値の理解を深める 教師からの揺さぶりの発問

教師からの揺さぶりの発問を受け、多面的・多角的に
考え、道徳的価値について深く考えられるようにする

発問例 「でも」「どうして？」
「本当に?」「できるかな?」



〇〇君は自分から声をかけると
言ってるけど、△△さんは本当
に自分からは声をかけないの？

声をかけづらいけど、自分から
声をかけた方がいいのかなあ...



めあて
の再考

広い心をもつとは、どういうことだろう

相手の気持ちを察すること...



でも、自分が大けがをした時に
けがをさせた相手の気持ちを本
当に察することができますか？

こういう場合こそ大けがをさせて
しまった相手の気持ちも察してあげ
ることが大切なのかなと思います



多面的・多角的に考え
道徳的価値の理解を深めることができた

多様な考えを基に、人間としての生き方について考えようとする生徒

成
果

- カラーコップを使用したことで立場が明確になり、互いの立場の考えに疑問が生まれ、生徒同士の話し合いが活発になった。
- 生徒同士の話し合いや教師からの揺さぶりの発問で、自分の考えに固執せず多面的・多角的に考えることができた。
- 揺さぶりの発問をしたことで、道徳的価値の理解を深め、人間としての生き方について考えるきっかけとなった。

課
題

- 道徳的価値の理解をより深めることができるよう、考えの違いや根拠を問う話し合いに広げたい。
- 道徳的価値の理解をより深めることができるよう、実態に応じた揺さぶりの発問を数多く用意しておきたい。